

# 研究主題 「考え、伝え、学び合う児童の育成

## ～言語活動の充実を通して～

高学年分科会の目指す児童像・・・自分の考えや思いを目的に応じて伝え合い、深められる子

### 第4学年 図画工作科学習指導案

日 時 平成26年10月15日(水)

第5校時 13:15～14:00

対 象 第4学年1組 33名

授業者 教諭 蜂谷 顕一

場 所 3階 図工室

#### 1 題材名 家の守り神 ～シーサー～ (焼きもの)

#### 2 題材の目標

手や全身の感覚を使い、粘土のもつ特徴を生かしながら、想像力を働かせて作る。

#### 3 単元(題材)の評価規準

観点 評価	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
単元の 評価規準	粘土の感触を楽しみながら、進んで表現し、興味を持って取り組もうとしている。	材料などから豊かな発想をし、手や全身の感覚を使い、表し方を工夫している。	造形活動に触れ、素材(粘土)のもつ特徴を生かし、形を構成している。	鑑賞の時間を通じて、他の作品のよさや面白さを感じようとしている。
学習活動に 即した <u>具体的な</u> 評価規準	① 粘土の素材感に触れ、表現することに興味をもって取り組んでいる。 ② 視覚や触覚などの感覚をはたらかせて、造形活動を楽しんでいる。	① 自分の感覚や活動を通して、形を構成しようとしている。 ② 粘土を形成し、創造・発想したことを、自分なりの表し方で試している。	① 粘土をくっつけたり、ねじったり、変化させながら、表し方を探求している。 ② イメージを基に、それが表現できるように工夫している。	① 自分や友達の作品の形や面白さを味わい、特徴や工夫に気付く。 ② 鑑賞を通して、見たもの、感じたことを、言語で表している。

#### 4 指導における自分の考え方

##### (1) この題材の扱いについて

陶芸(焼きもの)は、粘土を形成し・乾燥・焼成と、人類の最も古いテクノロジーおよび芸術形式のうちの1つである。そういった歴史と文化のある題材を、創造活動を通じて児童に体験させたい。また、3時間設定の中で、言語活動の充実に向けた取り組みとして、友達の作品のよさや工夫、自らの作品に対する思い等を伝え合う鑑賞の場を設定する。

## (2) 児童の実態について 「児童観」

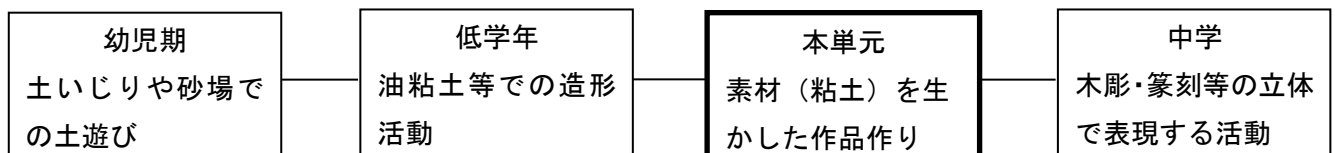
ほとんどの児童が図工の時間を楽しみにしており、どの題材にも意欲的に取り組んでいる。4月から、技法（スパッタリング）を使って季節を表現する活動や、木材を使った工作を中心に取り組んできた。

自分の名前を電動のこぎりで切り取る題材では、試行錯誤しながら友達と協力し、取り組む姿が見られた。絵よりも工作を得意とする児童が多く、一般的にこの時期の子供たちは、材料の色や形の特徴を基に想像力を広げ、楽しみながら活動する様子が見られると言われている。そこで、初めての陶芸（焼きもの）を通して、軟らかい粘土が時間とともに、変化する過程を考えさせながら製作に取り組ませたい。また、粘土のもつ感触や、魅力を十分に体験させながら、造形的な創造活動の基礎的な能力の育成を図りたい。

## (3) 教材の活用について 「教材観」

- ・陶芸の写真や資料を使い、作品が出来上がるまでの過程を、理解させる。
- ・教師自ら作った焼きものを提示し、題材への興味をもたせ、創作意欲を高める。

## 5 年間指導計画における本単元との関係



## 6 題材の指導計画と評価計画（3時間扱い）

時 (本時)	主な学習活動	具体的評価規準 評価方法
第1時	・材料・道具配布・準備する。 ・焼きものが出来上がるまでの工程を説明する。 ・粘土の製作をする。	ア①観察
第2時	・粘土と粘土を接着するためのドベ作りをする。 ・シーサーの顔・体・部分を形成する。 ・作品がよりよくなるための工夫をする。	イ②観察 ウ①観察
第3時 (本時)	・作品の仕上げをする。 ・作品を机に並べ、鑑賞する。 ・友達のを鑑賞して、気付き、工夫等を鑑賞カードに書く。	エ②鑑賞カード提出

## 7 指導の工夫

- シーサーの形を形成するために、パーツに応じた作り方を集めて行う。
- ドベを作る際の見本を事前に用意し、提示する。
- 陶芸粘土の特徴として、形成の方法によっては、ひび割れ・崩壊等がおこるため、個別に作品の進行具合を把握しながら指導にあたる。

## 8 研究主題との関連

### ① この単元で身につけさせたい力

- ・ 作品を見て、感じたことを言葉に表す

### ② 研究主題に迫るための手だて

- ・ 作品の視点を与える。

作品の動きや形、自分の作品と比べて感じたことを伝える。また、よかった作品には、何を感じてそう思ったか、色・形・大きさ等の具体的な言葉での表し方を伝える。

- ・ 鑑賞カードの活用。

感じたことを自分なりの言葉で表せるように、必要に応じて2～3人のよい見本を提示する。

- ・ 発表の場を設定する。

友達を感じたこと、思ったことを発表し、多様な考え方や感じ方を知る。

## 9 本 時 （ 3 時間扱いの第 3 時間目）

### (1) ねらい

- ・ 友達の作品を鑑賞し、形の面白さ、造形の美しさに気付き、鑑賞カードを活用して表すことができる。

### (2) 学習計画

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
10分	○前時の復習・作品の仕上げ。		ア①観察
導 入 15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">鑑賞を通して、形の面白さや感じたこと、気づいたことを表そう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞カードを配布。</li> <li>・ 作品を机上に並べ、鑑賞の体制をつくる。</li> <li>・ 鑑賞での作品の捉え方、感じ方、視点を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞カードの書き方、伝え方が苦手な児童には個別に支援をおこなう。</li> </ul>	
展 開 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乾燥した後に、ひび割れができないように一人一人の作品を観察する。</li> </ul>	ア②観察
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞で、選ばれた児童の作品を全体へ提示し、個々の発表の意欲を高める。</li> </ul>	エ②発表
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を通して感じたこと・気付き。</li> </ul>		